

■現地研修 7 日目： 7 月 15 日（土）

研修 7 日目。本日はタフツ大学寮滞在、及びボストンでのプログラム最終日、「自分たちの研修、自分たちでつくる研修」のハイライトでもある「班別自主研修」が実施されました。事前に何度も練り直した計画を元に、グループ毎に設定した目的（テーマ）に沿って、自分たちの足でボストンの街を闊歩しました。本研修 3 つのテーマ（「自己発信力の伸長」、「国際性の涵養」、そして「リーダーとなる意欲」、）のうち、昨日のミーティングにて一番の課題として個々に突きつけられた「リーダーとなる意欲」、これを具体的な行動で示す機会でもありました。



終盤を迎え、浮彫りになって来た個々の意識の差（時間の管理や提出物など当たり前にするべきことへの意識）、チーム内での馴れ合い（相互に指摘せず繰り返してしまった現状）。もちろん、アメリカ研修を充実したもの、楽しいものにしようとそれぞれが強く思い、取り組んでいることは、間違いありません。しかし、少しでも自己中心的、他人任せとなれば危険を伴います。再度、班別自主研修がこのアメリカ研修でどのような意義があるのか、何を目的にするのかを明確にし、個々がリーダーであることを投げかけ、朝 9 時 15 分にハーバード大学メインキャンパスを出発いたしました。そして、17 時 30 分、ギリギリに駆け込んでくるグループにこちらが冷や冷やさせられましたが、タフツ大学のカフェテリアに全員無事到着。彼らの表情に見える達成感、満足気な笑顔が印象的でした。



尚、班別自主研修出発前、昨日「企業家によるプレゼンテーション」として熱いエールをいただいた松川原さんより、1時間弱ハーバード大学メインキャンパスを案内いただきました。先日実施した同大学大学院生「王さん」とのセッション時は、見学をする時間がとれなかったため、松川原さんの計らいと生徒たちの希望を受けて設定したものです。

アメリカ最古の歴史を誇り、言わずもがな世界最高学府の一つであるハーバード大学の教養教育システム（リベラルアーツ）の特徴と目的、同大学が目指す人材育成と社会的な背景にも触れながら、美しく、かつ重厚な歴史を感じる建物のいくつかを案内いただきました。最後はジョン・ハーバード（と言われている）像の前で記念撮影、学生として帰ってくる！ことを数名（恐らく）が心に刻み、『チューブ・ウェーブ』で気合を入れた後、班別自主研修へと出発いたしました。多くの班は、まずは大学生協（「Coop」）に立ち寄り、世界随一の運営資金を誇るハーバード大学に多くのお金を寄与してまいりました。

明日はいよいよ世界の金融、経済の中心、そして文化の発信地ニューヨークへ向かいます。ボストンでの研修は一区切り、舞台はもちろん、プログラムの内容も大きく異なりますが、自分自身で「研修」としての意義はいくらでも見出せること、より高められることを皆で共有し、解散となりました。

